

防災ラジオドラマ

グループ名「大阪国際大学放送部」

タイトル「震度3」

●登場人物

森田沙織（二十歳）・・・大阪国際大学の三回生
上原香奈（二十歳）・・・大阪国際大学の三回生
田中（三十五歳）・・・守口市役所危機管理課の職員
町の人A（五十代）・・・男性
町の人A（四十代）・・・女性

♪ 大学の食堂のノイズ

沙織 ……防災？

香奈 ……うん

沙織 ……何でまたそんな急に

香奈 ……うん

沙織 ……ほら、三月に東日本大震災起きたやんか。あれを受けて、大学周辺の地域ではどんな風に災害に備えてるんかをゼミ全体で調べることになってん。

沙織 ……待って待って。就職活動はどうするん？今日も企業説明会があったから、あたしゼミ休んだんけど・・・

香奈 ……先生もそこは考慮してくれてるみたい。今の段階では市役所で話聞いたり、実際に大学周辺を歩いて町を観察する程度でいいんやつて。

沙織 ……でもなあ・・・急に防災って言われてもピンとこおへん

香奈 ……実はな、もうすでに午後から市役所とアポとってんねん

沙織 ……え？

香奈 ……こういうのは早く終わらせるに限るやろ？2時から約束してるからもう大
学出なあかんねんけど

沙織 ……ご飯まだ食べてるし！

香奈 ……そんなん後から食べたらええやん。約束に送れる方が問題やで。ほら早く！

沙織 ……ちよ、ちよっと待ってえや！

♪ 車の騒音など町のノイズ

沙織 ……守口市役所ってえらい古いねんな

香奈 : 前にお母さんがいうてたけど、この市役所、地震来たら市内で真っ先につぶれるって言われてるらしいで

沙織 : 怖っ！大丈夫なん、それ？

香奈 : まあ昔からお金がない市や言うし

♪ 市役所内ノイズ

♪ 市役所の小会議室の扉開閉音

香奈 : 大阪国際大学の上原香奈です。今日はよろしくお願いします。

沙織 : 同じく大阪国際大学の森田沙織です。よろしくお願いします。

田中 : 危機管理課の田中です。市の防災の取組について伺いたいとのことでしたね？

香奈 : はい。そうです

田中 : 分かりました。それじゃあ、まずは震度五弱以上の地震が起きた時の被害について説明します。この守口市は淀川に沿って低地となっているので、液状化現象の発生が心配されています。

沙織 : 液状化現象？

田中 : 地震によって地盤がゆるみ、建物の倒壊や目上などが生じることです。埋め立て地や湿地帯なんかでよく起こるんです。

沙織 : へえ・・

田中 : あとは古い建物が密集しているの、市のあちこちで大規模な火災が起きると想定しています。特に住宅地での火災の場合、道が狭く入り組んでいるので、消防車が入れない恐れがあるんです。

香奈 : ていうことは、その間に一気に燃え広がってしまうんじゃ・・

沙織 : 何か対策はされてないんですか？

田中 : 液状化に関してはどうしようもないですからねえ・・。あ、でも火災に関しては防災訓練を実施して、防災の呼びかけを行っていますよ

沙織 : 呼びかけてそれだけですか？

田中 : 勿論、それだけではありませんよ。でも、市の防災は、あくまでも個人ではできないところを担当するだけですからねえ

♪ 駅前のノイズ、遠くで聞こえるホームのアナウンス、バイクのノイズ

沙織 : 大学の近所って、地震が起きたら結構怖いところやったんやね

香奈 : うん

沙織 : 何かあれば市役所に頼ればええって思ってたけど、市役所は個人の防災に期待してる感じやったな

香奈 : せやけど、ホンマに地震が来るかなんてわからへんのも事実・・

沙織 : 待って

♪ バイクや車の急停車音

沙織　：地震や

♪ 緊迫した音楽

香奈　：電線、揺れてる・・

沙織　：ど、どないしよう。どつか安全なところに逃げな！

香奈　：ちよつと置いてかんとつてや！

♪ 商店街を走る足音、立ち止り息を整える二人、商店街のノイズ

沙織　：止まった？

香奈　：電線はゆれてないけど・・・

ため息をついてへたる二人

町の人A　：何や、ねえちゃんら。あれくらの地震で大騒ぎして。びびってもうたんか？

町の人B　：ちよつと！あんたら大丈夫？さっきその電器屋のテレビで震度3つて出てたから、心配することないわよ

沙織　：え？

♪ 周囲に居る町の人たちのくすくす笑い

香奈　：町の人ら、さっきの地震何とも思っていないかな？

沙織　：みんな地震慣れしとんかな？

香奈　：もしかしたら私らは市役所で話を聞いた直後やったから、ちよつとの地震でも凄いことが起きてるように感じたんかも

沙織　：それでもさ・・。さっきのであんなに怖かったのに、もしあれよりも大きい地震が起きたらどうなるんやろ？

♪ 大きな地震の音

沙織　：木造の古い家はほぼ全部潰れるかも

♪ 家が崩れるノイズ

香奈　：道は避難する人達であふれていて、大騒ぎになってる

♪ 車のクラクションや、人の怒鳴り声

香奈　：そういえば萱島駅の萱島つて、この辺りが昔中州やったことを意味してるつて前にお婆ちゃんが話してた

沙織　：てことは、この辺も液状化で消防車が通れんくなる

沙織　：そこに火事が起きたら町中火の海や！

♪ 火事のノイズ、人の叫び声

沙織　：あかん！このままやったら絶対あかん！どうにかせんと！

香奈でも、どうにかって？

沙織　：それは・・研究や！このゼミの研究調査を地図にまとめて独自の防災マップ作られへんかな？

香奈 …防災マップ？

沙織 …それやったら町の人たちにも具体的にどこがどう危ないんか伝えられるし、
ずっと保存する事もできる

香奈 …そんなん、私らにうまく出来るかな？

沙織 …上手くできるかどうかじゃないよ。さっきのたった震度3の地震でも十分に怖かったやろ？それは、私らが町の防災の現状を知ったからや。これは町の人も知っておくべきことやで。震度3の今から動こう！

香奈 …うん、やろう、防災マップ

沙織 …そうと決まれば、早速準備しようや！はよ、学校戻ろう！

香奈 …うん！

♪ 二人が走って行く